

2022年度 入学試験

A日程

国語

解答について

- 1 受験番号はすでに印刷されています。自分の受験番号であることを確認し、出身中学、氏名を記入しなさい。
- 2 解答に当たっては、各問題について正しい解答を選び、その番号を該当する問題番号の解答欄にマークしなさい。

例えば 問二 C の正解が ④ の場合、解答欄に次のようにマークしなさい。

問題番号			解答欄									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
<input type="checkbox"/>	問二	C	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

もし、まちがってマークした場合には、プラスチック消しゴムで **あとが残らないように** 確実に消しなさい。

京都先端科学大学附属高等学校

次の文章を読んで後の間に答えなさい。(作問の都合上、一部表記を改めた箇所があります。)

あらためて確認すると、近年の研究では、私たちの祖先である現生人類(ホモ・サピエンス)は今から約二十万年前にアフリカで生まれ、やがて地球上の各地に広がっていったと考えられている。そうした私たちの祖先は、サバンナのような草原を主な舞台にしつつ、当初はいわゆる狩猟採集を中心とする生活を送っていた。

農耕が始まったのは今から約一万年前のことである。小麦やイネなどの植物を主に一年という時間のサイクルの中で、かつある程度秩序立った集団的な作業とともに、計画的に栽培するという生活パターンと比べれば、(ア) 狩猟採集は(少なくとも農耕に対し)より

「現在」中心の生活と言えるだろう。

と言つても、狩猟採集の生活は、決して単に、空腹が生じれば身近にある木の実や小動物、魚等をつかまえて食べる」ということに尽きているわけではない。言い換えれば、単純にその都度の「いま」ないし瞬間をただ^{※せつ}刹那的に生きるというのではない。

A、「わな」をしかけて獲物をつかまえるという行為を考えてみよう。当然、それはがむしやらに獲物をつかまえようとして後を追うといった行為とは異なり、そこにはある種の迂回^{※うかい}が存在している。**B** いったん欲求の充足を抑制し、いわば未来における

確実な欲求(食欲)の充足を得るために、**C**「わな」という手段的な道具を作り、**D**その上で、獲物がそれに引つかかるのを「待つ」という、時間の流れが存在している。

いささか哲学的な議論となつて恐縮だが、(イ)この時、世界にある種の「無」が発生した、あるいは紛れ込んだ、とすることができないのではないか。

すなわち、わなをしかけて獲物の到来を待つという際、当然ながらそこにその獲物は存在しておらず、存在しているとすれば、それはその狩猟採集民の意識の中においてである。つまり世界あるいは知覚の中に存在しないものが、このように人間の意識の中には存在しており、それどころか、私たちの意識というものは、そうした(現に存在しない)無数の「無」に満ちており、そのことよつてこそある種の安定した秩序を保っているのである。あるいはそうした無数の「無(現に存在しない何か)」とともに存在しているのが、私たちの「意識」の原初的な成り立ちなのだ。

あるいは、先ほど無が紛れ込んだという表現を使ったが、ここでは「有」と「無」が未分化のものとして**X**になっていると
言うこともできる。

そしてそれは実質的には、ここでの「わな」の例が示しているように、「現在の欲求の充足」をただ追求するような行動様式から、いったん欲求の充足を抑制して迂回し、「目的—手段」のシステムとしての時間的秩序、つまり「未来のための現在」を生きるという行動様式への移行ということと重なっている（それが真に本格化するのには、後に見る農耕の成立をまつてのことではあるが）。

以上のように、人間（ホモ・サピエンス）は生まれた当初から、言い換えれば狩猟採集生活の段階から、「現在」を中心としつつもあらゆる種の時間的に秩序化された世界を生き、そこに「意識」や「無」が生成していたと言いうことができるが、こうしたことが、文字通り明確な形で示され表現されるようになった大きな変化の時期がある。

それが「心のビッグバン」あるいは「文化のビッグバン」等と呼ばれる現象である。それは今から約五万年前の時期で、この時期、洞窟壁画などの絵画、装飾品、工芸品といった、現代で言えば「アート」や芸術の領域に属するようなものが一気に登場した。身近なイメージとしてはラスコーの洞窟壁画のような例が該当するが、日本の文脈では、いわゆる縄文土器（あるいは関連して発掘される耳飾りや首飾りの類など）がわかりやすいケースだろう。

ここでのポイントは、こうした作品は「実用性」という機能を超越しているという点である。これら土器の造形や「装飾」は、たとえばそれを使ってお湯をわかすとか食物を煮るといった実用性とはさしあたり無縁のもので、むしろそうした機能や「使い勝手」という観点からは無用と言えるものだ。

しかし視点を変えて見れば、そうした実用性、あるいは「現実世界の「利用」^(エ)」ということを超え出た^(エ)何か^(エ)が生まれたということが、他でもなく「心」が生まれたということとイコールなのではないか。【I】

この点は、先ほど狩猟採集社会の前期における意識のありようを、「わな」という例に即して述べた内容と対比させるとわかりやすい。「わな」をしかけて獲物を捕るという行為は、まさに「実用性」の範囲にとどまっている。そこには、「現在」を超え出る時間的な要素、また先述のように「無」の要素は含まれているが、それらはなお派生的あるいは手段的なものにとどまっている。【II】

ところが先ほどの縄文土器の作品群の場合、上記のようにそれらは実用性の範囲を超越出ている、言い換えると食物を食べるための「手段」という性格を超越出ている、いわばそれ自体——その造形や文様、あるいは創造行為を楽しむこと——が、独立した「目的」になっている。

つまりここにおいて「心」の領域が世界から独立し、固有の価値を獲得したのである。【III】
では、以上のことは「無」とどう関わるのだろうか。

結論から言えば、ここにおいて「無」の領域が自立、あるいは独立したと行うことができるのではないか。つまり、先ほどの「わな」の例で示されたように、「世界に現に存在しているもの」や「実際の欲求充足」のために、つまり手段的に「そこにないもの」を表象するのではなく、むしろそれ自体を目的として様々な「世界にないもの」を創造していくような営みの発生である。【Ⅳ】

ただし誤解のないよう補足すれば、先ほど「無」の領域が自立ないし独立した」と述べたのは、「無」という抽象的な観念が生まれたという意味ではない。ここで述べているのは、「世界に存在しないもの」を人間が様々な形で作り出し、それに固有の価値を与えるようになったという趣旨である。【Ⅴ】

以上のように考えていくと、「無」の領域の自立と「心」の自立とは、互いに【Ⅵ】の出来事であるという理解が可能になる。その意味で、(キ)人間の「心」は「無」の領域とともに展開していったと言うこともできるだろう。

(広井 良典『無と意識の人類史 私たちはどこへ向かうのか』)

注 刹那的……きわめて短い時間であるさま。

迂回……回り道すること。

問一 —— (ア)「狩猟採集は(少なくとも農耕に対し)より『現在』中心の生活と言えるだろう。」とありますが、「現在」中心の生

活とはどのような生活ですか、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 空腹が生じればとりあえず身近にある木の実や小動物、魚等を捕まえて食べる生活。
- ② 空腹を満たすために単純にその都度の「いま」ないし瞬間をただ刹那的に生きる生活。
- ③ 「わな」をしかけて獲物をつかまえるなど、がむしゃらに獲物をつかまえようとする生活。
- ④ 農耕のように、時間のサイクルの中である程度秩序だった生活パターンを取っている生活。
- ⑤ 現在の欲求充足の追求から未来のための現在を生きようとする行動様式へと変化しつつある生活。

問二

【A】～【D】にあてはまる語として適当なものを次の①～⑤の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① かつ
- ② ます
- ③ しかし
- ④ たとえば
- ⑤ つまり

問三 ——— (イ)「この時、世界にある種の『無』が発生した、あるいは紛れ込んだ、と言うことができるのではないか。」とありま

すが、「この時」とはいつのことですか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 空腹が生じ身近にあるものを捕まえて食べる時。
- ② わなをしかけてから獲物がかかるのを待つ時。
- ③ がむしゃらに獲物をつかまえようとして追う時。
- ④ 獲物が世界中のどこにも存在していない時。
- ⑤ 意識がある種の安定した秩序を保っている時。

問四

X
・
Y

に入る四字熟語を次の①～⑤の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 表裏一体
- ② 心技一体
- ③ 三位一体
- ④ 混然一体
- ⑤ 名実一体

問五

——— (ウ)『心のビッグバン』あるいは『文化のビッグバン』等と呼ばれる現象」とありますが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 狩猟採集生活から農耕生活へと変化したことで、「意識」や「無」が生成されていった現象。
- ② 縄文土器の中に「現代アート」の作品と言ってもおかしくない迫力に満ちた作品が生まれる現象。
- ③ 縄文土器のように「実用性」という機能を超え、造形や装飾、創造行為自体を楽しむ現象。
- ④ 縄文土器や「わな」のように、機能や使い勝手の良いものをさらに追求しようとする現象。
- ⑤ 洞窟壁画などの絵画、装飾品、工芸品といった、「アート」や芸術を追求しようとする現象。

問六

——— (エ)「何かが生まれた」とありますが、「何」が生まれたのですか、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 実用性
- ② 芸術
- ③ 手段
- ④ わな
- ⑤ 現在

問七 —— (オ) 『心』の領域が世界から独立し、固有の価値を獲得した」ものの例としてふさわしくないものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 縄文土器
- ② わな
- ③ 工芸品
- ④ 洞窟壁画
- ⑤ 装飾品

問八 —— (カ) 『無』の領域が自立、あるいは独立した」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 世界に現に存在しているものや実際の欲求充足を表面化すること。
- ② 欲求充足の手段としてそこにあるものを表象し明確にしたこと。
- ③ そこにないものの表象を目的とし、世界にないものを創造し始めたこと。
- ④ 世界にないものの創造から「無」という抽象的観念が生まれ始めたこと。
- ⑤ 世界に存在しないものに固有の価値を与え、他者と共有し始めること。

問九 次の一文を入れるのに最もふさわしい箇所を次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

いずれにしても、これによって人間の「心」は、世界に存在しないものを多く含む、言い換えれば世界から自立した固有の領域としての性格を強めていくことになった。

- ① 【I】
- ② 【II】
- ③ 【III】
- ④ 【IV】
- ⑤ 【V】

問十 ——— (キ)「人間の『心』は『無』の領域とともに展開していった」と言える理由を次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を

マークしなさい。

- ① 現在の欲求の充足をただ追求するような行動様式から、未来のための現在を生きる行動様式へと移行することで、実際にな
いもの〴〵を表現する芸術的感性が磨かれたから。
- ② 狩猟採集生活から農耕生活へと移行し、ある種の時間的秩序化された世界を生きることによって「意識」や「無」が生成され、同
時にそれを表現する心が生まれたから。
- ③ 現実世界の利用や実用性を超え、造形や装飾など機能性を無視したものを作ることによって、土器などの制作の際に手段や目的を
重視しようとする心の余裕が生まれてきたから。
- ④ 世界に現に存在しているものや実際の欲求充足のために手段的に〴〵そこにはないもの〴〵を表象するのではなく〴〵そこにはないも
の〴〵を作ることとを目的とし、新たな芸術を創造し始めたから。
- ⑤ 人間が〴〵世界に存在しないもの〴〵を様々な形で作り出し、それに固有の価値を与えるようになったことで、「心」の領域が世
界から独立し、固有の価値を獲得したから。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(作問の都合上、一部表記を改めた箇所があります。)

共通語と似た意味のことばに標準語がある。共通語と標準語は同じ意味で使われることもあるが、^(A)ゲンミツには区別すべき^(B)ガイネンである。共通語は(スピーチをするときのような)あらたまった場面や、よその地方の人との会話などで現実に使われている話しことばである。それに対して、標準語は、人々がキ^(C)ハンとして正しいと認識していることば(言語形式)であり、書きことば的な性格が強い。ラジオやテレビのニュースで使われていることばは標準語である。同じメディアでも、インタビュアーやタイ^(D)ダンなどで話されていることばは共通語である。具体例をあげれば、「しよっぱい」「こわい」「行っちゃった」などは共通語であり、「塩辛い」「おそろしい」「行ってしまった」が標準語である。「見れる」「来れる」などの「ラ抜きことば」は今のところ標準語と認められていないが、^(ア)この言い方は全国に広がりつつあり、共通語になりつつあると言えるだろう。

同じ地域でも、高年層と若年層の使うことばには大きな違いがある。昔は職業や社会階層による言語差が大きかった。たとえば、同じ村でも、地主と小作人では「父」「母」の呼び方が違っていた。ある種の階層の女性が使っていた「ザアマスことば」もあった。このように、ことばづかいに世代差や階層差が見られるとき、それぞれの世代・階層の使う言語・表現は社会方言と呼ばれる。若者ことばは社会方言の一種である。社会方言に対して、地域差に着目した言語の違いは地域方言と呼ばれる。とくに、ことわりなしに方言と言え、地域方言を指すのがふつうである。

方言は地域社会をまとめるはたらきをもっている。つまり、方言は地域の^(イ)アイデンティティーなのである。昔は地域社会の最小単位は^{*}小字^(こあざ)であった。消防団などは小字ごとに集会を開いていた。したがって、方言は小字ごとに違っている。

^(ウ)方言はなぜ生まれるのだろうか。

ことばは時代とともに少しずつ変化していく。現代でも、高年層と若年層のことばは違う。明治時代と現代では、ことばづかいにかなりの差が見られる。奈良時代、平安時代、鎌倉・室町時代、江戸時代、現代の言語差はきわめて大きい。

交通網が発達している現代とは異なり、昔は地方に住む人々どうしの交流はほとんどなく、ごく一部の人を除いて、多くの人は自分が生まれた村や町を離れることがなかった。そのために、各地でことばが違う方向に変化し、ことばの地域差(方言)が生まれたのである。

日本の方言が生まれた時期は明白ではない。しかし、少なくとも一〇〇〇年以上前にはすでに、全国にさまざまな方言があったと考え

られる。『(エ)万葉集』の東歌(巻一四)と防人歌(巻二〇)には、東国(東日本)の方言がキ(エ)サイされている。

東歌では、たとえば「父母」を指すことばは「あもしし」、「ことば」は「けとば」と書きあらわされている。「あも」は母、「しし」は「父」の意味であり、現代の「ちちはは」と順番が逆の表現になっていることはおもしろい。「ふるよき」(降る雪)、「あしけひと」(悪しき人)などの語形も見られる。このような東歌に見られることばの一部は、現代の八丈島方言の中に残っている。現在、東日本で使われている打ち消しの助動詞「ない」(例Ⅱ読まない)は、『万葉集』の東国方言「なふ」の変化と考えられている。西日本方言の打ち消しの「ん」(例Ⅱ読まん)は古語「ぬ」の変化である。

方言は、政治・文化の中心地から、水の波紋のように周辺に広がっていく。したがって、日本で使われている方言には奈良や京都で生まれ、地方で独自の変化をとげたものが多い。たとえば、平安時代に京都で使われていた「つらら(氷柱)」を意味する「たるひ」は、タルヒ・タロツペ(東北)、タルキ・タンタルキ(北陸)、タロミ・タロヨン(九州)などの形で日本の周辺地域に残っている。柳田國男の唱えた「方言圏論」は、この事実をもとに論じたものである。

ちなみに、方言が地方に伝わっていく速度は、年速約一キロメートルという研究がある。京都で生まれたことばが青森に到達するには一〇〇〇年以上かかることになる。

(佐藤 亮一『日本の方言』)

注 小字……町や村をさらに細かく分けた区域。

問一

——(ア)「この言い方は全国に広がりつつあり、共通語になりつつあると言える」とありますが、その理由として最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 標準語は、日本語の文法にそった正しいことばであるのに対し、共通語は人との会話で通じれば文法的な間違いがあっても許されるから。

② テレビやラジオの影響により、共通語と標準語の違いがあいまいになってきており、その違いを明確に分けることができなくなっているから。

③ 「ラ抜きことば」は、インタビューをはじめ、テレビのニュースでも使われるようになり、一般化した言葉づかいになってきているから。

④ 「ラ抜きことば」は、書きことばとしては正しくないが、人との会話の中で使われている話しことばであり、社会に浸透してきているから。

⑤ 「ラ抜きことば」は、一部の地域で使われ始めたが、全国に広まったことで地域を問わず通じる共通語としての要素が強まっていったから。

問二

——「の」の用法と同じものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① これは私の教科書です。

② 彼女は走るのが早い。

③ 行くの行かないのと騒ぐ。

④ 私の好きな本。

⑤ あの日の出来事を思い出す。

問三

——(イ)「アイデンティティー」の意味としてふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 子どもらしさ

② 人間らしさ

③ 自分らしさ

④ 新しさ

⑤ かわいらしさ

問四

——(ウ)「方言はなぜ生まれるのだろうか。」とありますが、その理由として最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 交通網の未発達により人の行動範囲がせまく、それぞれの地域特有の言葉が形成されたから。
- ② 若者同士の結束を強めるために、仲間うちだけが理解できる言葉が発達していったから。
- ③ 明治期と現代とでは、人々の生活習慣や考え方が変わり、言葉にも影響を与えているから。
- ④ 昔は生まれ育った地域を離れることが全くないので地元でしか通じない言葉を使ったから。
- ⑤ ことばは、時代の流れや性別・年齢など様々な要素によって構成されていったものだから。

問五

——(エ)「万葉集」には収録されていない歌人を次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① やまのうえのおくら 山上憶良
- ② じとうてんのう 持統天皇
- ③ ぬかたのおおきみ 額田王
- ④ きのつらゆき 紀貫之
- ⑤ やまべのあかひと 山部赤人

問六

本文の内容に合致するものとして最もふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 一〇〇〇年以上前に使われていた京都の言葉が東北の方言として残っているのは、言葉はゆるやかに広まるためである。
- ② 『万葉集』にも東国の方言がのっていることから、方言は奈良時代以前からすでに形成されていたことが明確になっている。
- ③ 昔は年齢による違いだけでなく、職業社会階層によって使われる言葉が違い、のち方言として各地に広まっていった。
- ④ 『万葉集』の東歌に見られる東国の方言は、一〇〇〇年という長い時間の経過とともに、すべて消滅してしまった。
- ⑤ 方言は、政治や文化の中心地から地方に広がっていったことから、すべての方言は京都・奈良の言葉が起源となっている。

問七 ——— (A) (E) と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

(A) ゲンミツ

- ① 地域ゲンテイの商品を買う。
- ② 川のゲンリユウを歩く。
- ③ 税金をゲンメンする。
- ④ ゲンゾンする最古の遺跡。
- ⑤ ゲンセンされた材料。

(B) ガイネン

- ① カイガイ支社に派遣される。
- ② 計画のガイヨウを説明する。
- ③ ガイトウ演説を聞く。
- ④ 自然サイガイが多発する。
- ⑤ カンガイ深い思ひ出話。

(C) キハン

- ① 結果がハンメイする。
- ② 新商品をハンバイする。
- ③ ハンガの作品を見る。
- ④ モハンのな行動をとる。
- ⑤ ハンカナ駅前通りを歩く。

(D) タイダン

- ① なごやかにダンショウする。
- ② ダンボウの効いた部屋。
- ③ ダンゾク的に降る雨。
- ④ 考え方にダンリョクをもたせる。
- ⑤ チームがイツチダンケツする。

(E) キサイ

- ① 問題がサイネンする。
- ② 返事をサイソクする。
- ③ 小説を雑誌にレンサイする。
- ④ 布をサイダンする。
- ⑤ 木をバツサイする。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

むかし、(ア) 殿上くんじやうのをのことも、花見むとて東山に¹ おはしたりけるに、にはかに心なき雨のふりて、人々、げに騒ぎ給へりけるが、
 実方さねかたの中将、いと騒がず、木のもとによりて、かく、

さくらがり雨はふり来ぬおなじくは濡ぬるとも花の陰にかくれん

と² よみて、かくれたまはざりければ、花より漏もりくだる雨にさながら濡れて、装束しぼりかねはべり。(イ) このこと、興あることに人々

(ウ) 思ひあはれけり。またの日、齊信ただのぶ大納言、主上に「かかるおもしろき事のはべりし」と奏せられけるに、行成ゆきなり、その時藏人頭くらうどのとうにておはしけるが、「歌はおもしろし。実方はをこなり」と³ のたまひてけり。この言葉を実方もれ聞きたまひて、(エ) ふかく恨みをふくみ給ふとぞ聞こえはべる。

〔撰集抄〕

注 にはかに……急に。 げに……なるほど、本当に。 さくらがり……花見。 装束……着物。 主上……天皇。

おもしろき……風情がある。 奏せられ……天皇に申し上げて。 をこなり……ばかけている。

問一 —— (ア)「殿上のをのことも」・(ウ)「思ひあはれけり」を現代仮名遣いに直すとき、正しい組み合わせのものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ① てんじやうのおのことも・おもいあはれけり | ② てんじやうのおのことも・おもいあわれけり |
| ③ てんじやうのをのことも・おもいあはれけり | ④ てんじやうのをのことも・おもひあわれけり |
| ⑤ てんじやうのおのことも・おもひあわれけり | |

問二 Ⅱ 1 「おはしたりける」・2 「よみて」・3 「のたまひてけり」の主語を次の①～⑤の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 殿上ののをのこども ② 実方の中将 ③ 斉信大納言 ④ 主上 ⑤ 行成

問三 Ⅱ 「このこと」の指示する内容として正しいものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 殿上ののをのこどもが東山に花見に行ったこと。
② 花見の最中に予期しない雨が降ったこと。
③ 実方の中将が有名な和歌を口ずさんだこと。
④ 実方の中将が突然の雨で濡れになったこと。
⑤ 実方の中将が自分の詠んだ和歌を再現したこと。

問四 Ⅱ (エ) 「ふかく恨みをふくみ給ふ」とあるが、実方が行成を恨む要因となった言葉として最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 花の陰にかくれん ② 装束しぼりかねはべり ③ かかるおもしろき事のはべりし ④ 歌はおもしろし
⑤ 実方はをこなり

問五 係り結びを作り、文末を語形変化させる助詞(係助詞)は本文中にいくつありますか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 一つ ② 二つ ③ 三つ ④ 四つ ⑤ 五つ

問六 次の会話文は、本文について話し合ったものの一部です。のちの問に答えなさい。

都さん 実方は行成に対して深く恨んだみたいだけど、この後どうなったのかな。

学さん 実はその後の二人のお話が『十訓抄』に書かれているよ。宮中で出会った時、実方が行成の冠を打ち落とし、庭に投げ

捨てたんだ。けれども行成は全く動じず、怒りを我慢して冷静な対応をしたんだって。

都さん なるほど。『撰集抄』の話でも実方よりも行成の方が冷静な人物であることが読み取れるわ。

学さん その様子をたまたま天皇が御覧になっていて、行成は出世するきっかけをつかむんだ。一方、実方は地方の国司として

左遷させられてしまうよ。

都さん 実方にとっては **1** ということわざ通りになってしまったのね。

学さん 『十訓抄』は十カ条の教訓に分けていろいろなお話をのせているんだけど、このお話は **2** という教訓の話としての

のっているよ。

都さん 何事も冷静な対応が必要ってことね。

(1) **1** に入ることわざとしてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① ひょうたんから駒 ② 二階から目薬 ③ 馬の耳に念仏 ④ 泣き面にはち ⑤ 弘法も筆の誤り

(2) **2** に入る語句としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 人に恵を施すこと ② ごう慢を離れること ③ 朋友を選ぶべきこと ④ 諸事を堪忍すべきこと
⑤ 懇望を停むべきこと

問題は以上です

2022年度 A日程 国語

受験番号

マールク例
 良い例 ●
 悪い例 ○
 ◎
 ◐
 ◑

問題番号		解答欄										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
一	問一 5点	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問二 2点×4	A	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		B	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		C	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		D	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	問三 3点	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問四 2点×2	X	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		Y	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	問五 4点	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問六 4点	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
問七 4点	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
問八 4点	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
問九 4点	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
問十 5点	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		

問題番号		解答欄										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
二	問一 4点	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問二 3点	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問三 3点	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問四 4点	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問五 3点	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問六 4点	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問七 2点×5	A	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		B	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		C	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		D	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
E		①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	

問題番号		解答欄										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	
三	問一 2点	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問二 2点×3	1	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		2	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		3	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	問三 4点	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問四 3点	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問五 3点	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	問六 3点×2	(1)	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		(2)	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

中学出身	氏名
中学校	